

新たな登米市医療を 目指して

今、全国的に医師の偏在などによる地域医療体制の在り方が問われています。登米市においても例外ではなく、さらに医師不足や診療報酬の減額改定による経営の悪化、建物の耐震問題など、多くの課題を抱えています。これらの問題を解決してこうと市では、平成19年4月に医療局に経営改革推進室を設置しました。また、病院経営の早期改善を目指すために、専門的な知識と経験、実績を有する病院経営改革専門委員を外部から登用配置するなど、新たな取り組みに着手しています。

市立病院における現状や医療課題（市立病院の現状や経営内容、病院機構の再編や地域医療の在り方などの内容）を、今月からシリーズでお知らせします。1回目の今回は、医師の勤務体制や病院事業の経営状況です。



市が抱える医療の課題

平成18年2月の国会で可決された医療制度改革関連法により、療養病床の廃止・削減や診療報酬を3・16%引き下げる改定が行われました。

また、全国的な産科・小児科の医師不足を受けて、国で進めている「医師確保総合対策」により、産科・小児科医師の集約化で医師の転属などが

そのほかに、夜間の救急搬送患者・時間外患者や入院患者への対応のために、当直での勤務もあります。

また、土、日曜日には日直があり、これらを限られた人数の医師でこなさなければならぬ現状になっています。

そのため、各病院では、東北大学病院などから医師を派遣してもらい対応しています。

しかしながら、その応援医師も不足していることから、どうしてもその病院にいる医師で当直や日直を行わなければ

ならず、18年度には1人の医師が1カ月に10日以上の日直を行ったという事実もありました。

特に当直は、通常の勤務を行った後に、そのまま当直の業務に入り、その次の日も外来患者の診察などの通常勤務といった、24時間を超える過酷な勤務を余儀なくされているケースもあります。

それ以外にも常勤医師は、入院患者の容態急変などに対応するため、普段から連絡を取れるようにしており、必要

なときはすぐに病院へ駆けつけることが求められるなど、常に拘束された状態となっています。

医療費改定・病床数減による経営の悪化

このように市の病院運営は、医師の使命感に頼る部分が大きく、このまま過酷な勤務体制が長く続けば、医師確保が困難になるとともに、残った医師の負担がますます増大し、さらなる医療環境の悪化を招くこととなります。

この病院事業収益減少の主な要因としては、次のことが考えられます。

診療の休止や診療を制限する科も

各市立病院では、常勤医師の退職による深刻な医師不足が生じたことにより、診療制限を実施せざるを得ない状況になりました。

佐沼病院の小児科は、常勤と応援医師の2人体制が、常勤医師1人となったために、外来の夜間・休日の診療は平成18年5月1日から休止し、入院については平成18年5月12日から休止しています。

佐沼病院の産婦人科は、平成18年4月1日から常勤医師が1人となったために、他地域からの里帰り出産受け入れを休止し、危険が伴うと思われる出産は高次医療施設に紹介しています。

このほか、米谷病院の外科においても、常勤医師の退職により平成18年9月1日から診療を休止しています。

医師の過酷な勤務状況

各病院とも常勤医師は、日中、外来患者の診察と、入院施設を持つている病院では、午後から入院患者の診察や手術、訪問診療といった業務を行っています。

- ① 患者数の減少
 - ② 患者1人当たりの収益の減少
 - ③ 放射線など検査数の減少
 - ④ 手術件数の減少
 - ⑤ 診療報酬改定の影響
- 診療報酬の改定内容は、診療報酬本体で1・36%、薬価で1・8%、合計で3・16%の減額で、診療収益の減少に大きく影響しています。

【問い合わせ】

医療局経営改革推進室
☎0220(21)5030

表1 診療科別医師数 平成19年4月1日現在

| 区分 | 佐沼病院 | 登米病院 | 米谷病院 | 豊里病院 | よねやま病院 | 計 |
|------------|------|------|----------|------|--------|----|
| 内科 | 8 | 2 | 3 | 4 | 2 | 19 |
| 外科 | 5 | 1 | | 1 | 1 | 8 |
| 消化器科 | | | | 1 | | 1 |
| 整形外科 | 1 | | 1 | 1 | | 3 |
| 皮膚科 | 1 | | | 1 | | 2 |
| 泌尿器科 | 1 | | | | | 1 |
| リハビリテーション科 | 2 | | | | | 2 |
| 産婦人科 | 1 | | | | | 1 |
| 眼科 | 1 | | | 1 | | 2 |
| 放射線科 | 1 | | | | | 1 |
| 麻酔科 | 1 | | | | | 1 |
| 歯科 | | 1 | 1 (口腔外科) | 1 | 1 | 4 |
| 小児科 | 1 | | | | | 1 |
| 計 | 23 | 4 | 5 | 10 | 4 | 46 |

表2 病院別外来患者数の推移 単位：人

| 区分 | 平成18年度 | 平成17年度 | 平成16年度 |
|--------|---------|---------|---------|
| 佐沼病院 | 154,392 | 168,442 | 172,429 |
| 登米病院 | 50,794 | 54,104 | 57,722 |
| 米谷病院 | 47,671 | 59,640 | 64,904 |
| 豊里病院 | 86,323 | 83,524 | 89,414 |
| よねやま病院 | 43,633 | 46,065 | 49,511 |
| 計 | 382,813 | 411,775 | 433,980 |

表3 病院別入院患者数の推移 単位：人

| 区分 | 平成18年度 | 平成17年度 | 平成16年度 |
|--------|---------|---------|---------|
| 佐沼病院 | 82,902 | 90,335 | 87,415 |
| 登米病院 | 24,847 | 27,144 | 30,101 |
| 米谷病院 | 21,327 | 28,003 | 28,609 |
| 豊里病院 | 32,634 | 34,606 | 25,739 |
| よねやま病院 | 12,327 | 15,375 | 16,094 |
| 計 | 174,037 | 195,463 | 187,958 |

表4 病院別単年度剰余金 単位：千円

| 区分 | 平成18年度 (見込み) | 平成17年度 | 平成16年度 |
|--------|--------------|-----------|-----------|
| 佐沼病院 | △ 657,582 | △ 277,265 | △ 333,601 |
| 登米病院 | △ 89,580 | △ 1,117 | 57,024 |
| 米谷病院 | △ 283,583 | △ 170,537 | △ 148,518 |
| 豊里病院 | △ 169,020 | △ 38,249 | △ 13,742 |
| よねやま病院 | △ 143,563 | △ 113,110 | △ 81,254 |
| 計 | △ 1,343,328 | △ 600,278 | △ 520,091 |

表5 病院別年度末累積剰余金 単位：千円 (前年との増減比率：%)

| 区分 | 平成18年度 (見込み) | 平成17年度 | 平成16年度 |
|--------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 佐沼病院 | △ 4,717,222 (△16.2) | △ 4,059,640 (△7.3) | △ 3,782,375 (△9.7) |
| 登米病院 | △ 788,253 (△12.8) | △ 698,673 (△0.2) | △ 697,556 (7.6) |
| 米谷病院 | △ 894,040 (△46.5) | △ 610,457 (△38.8) | △ 439,921 (△51.0) |
| 豊里病院 | △ 227,981 (△286.7) | △ 58,961 (2.2) | △ 60,274 (△29.5) |
| よねやま病院 | △ 606,468 (△31.0) | △ 462,905 (△32.3) | △ 349,795 (△30.3) |
| 計 | △ 7,233,964 (△22.8) | △ 5,890,636 (△10.5) | △ 5,329,921 (△10.8) |